

## 登録有形文化財（建造物）の登録について

令和2年3月19日（木）に文化審議会（会長 <sup>きとう まこと</sup> 佐藤 信）が開催され、同審議会文化財分科会の審議・議決を経て、下記の文化財の登録が文部科学大臣に答申される予定です。今後、官報告示を経て、登録文化財原簿に登録されることとなります。

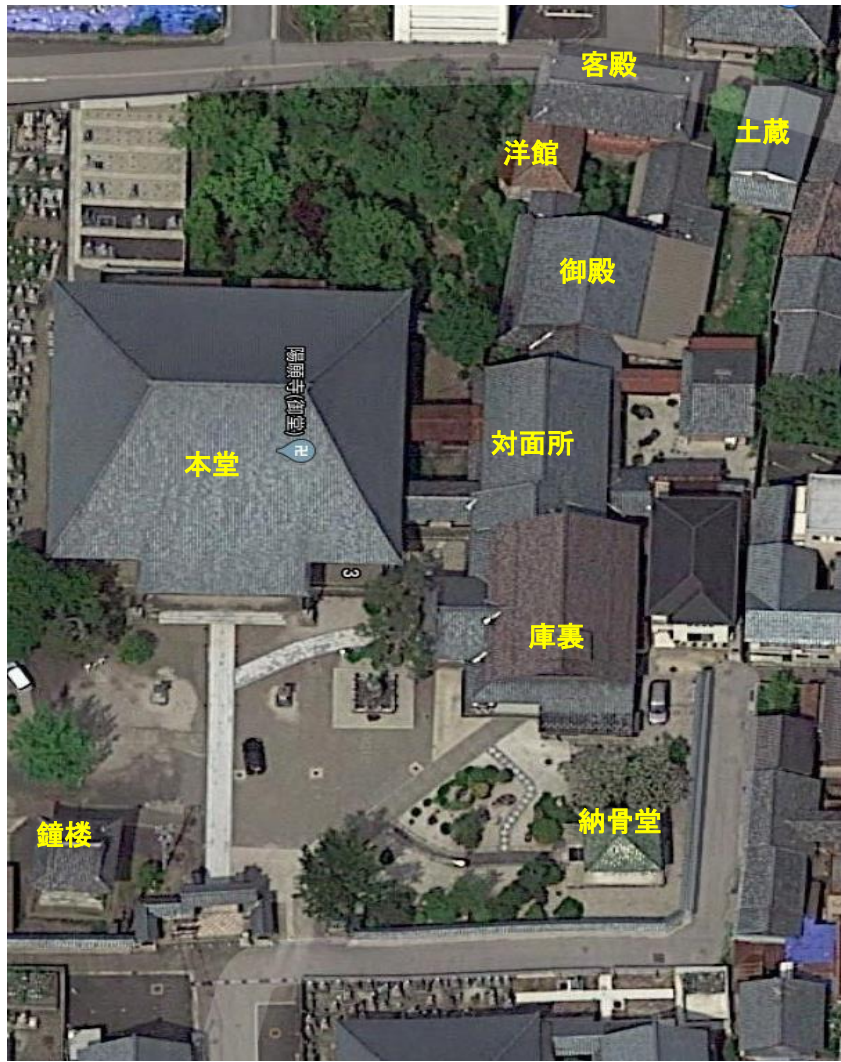
本県関係では、令和元年11月15日に答申された <sup>あおきらんじやどうしんざしき</sup> 青木蘭麿堂新座敷など3件に続くもので、官報待ちを含め合計209件となる予定です。

### 記

#### 【答申予定の登録有形文化財（建造物） 13件】

	名 称	員数	所 在 地	所有者	建築年代
1	ようがんじほんどう 陽願寺本堂	1 棟	越前市本町 154	宗教法人 陽願寺	明治 35 年
2	〃 くり 庫裏	1 棟	〃	〃	明治前期／ 昭和 30 年代増築
3	〃 たいめんしよ 対面所	1 棟	〃	〃	明治前期／ 明治 44 年改修
4	〃 ごてん 御殿	1 棟	〃	〃	明治 35 年頃
5	〃 ようかん 洋館	1 棟	〃	〃	昭和 9 年頃
6	〃 きやくでん 客殿	1 棟	〃	〃	昭和 17 年頃
7	〃 どぞう 土蔵	1 棟	〃	〃	明治 30 年頃
8	〃 しょうろう 鐘楼	1 棟	〃	〃	明治 23 年
9	〃 のうこつどう 納骨堂	1 棟	〃	〃	昭和 26 年
10	しんようしゃせいしじよすきぼとう 信洋舎製紙所漉場棟	1 棟	越前市定友町	西野 正洋	明治後期
11	〃 きゅうきゅうけい ば およ 旧休憩場及び はりばとう 張場棟	1 棟	〃	〃	明治 19 年
12	〃 ボイラー およ 及び きゅう ばとう 旧ロール場棟	1 棟	〃	〃	明治中期
13	〃 きゅうちりとりば 旧塵取場 およ しあげばとう 及び仕上場棟	1 棟	〃	〃	明治 32 年





配置図



ほんどう  
【本堂】

- ・ 年 代 明治 35 年 (1902)
- ・ 特 徴 境内中央にある寄棟造の大型本堂。北余間に鞘の間を取り込んで御簾の間とするなど、高い寺格を示す。



くり  
【庫裏】

- ・ 年 代 明治前期／昭和 30 年代増築
- ・ 特 徴 本堂北に建つ切妻造。一部改造があるが近世以来の様相を示す。



たいめんしょ  
【対面所】

- ・ 年 代 明治前期／明治 44 年改修
- ・ 特 徴 庫裏の西に続く。東から広間、使者の間で、対面所は西面に床と棚を飾る。対面所西背後の松の間は小座敷で控の間とする。高い格式を備えた接遇施設である。



ごでん  
【御殿】

- ・ 年 代 明治 35 年頃
- ・ 特 徴 対面所の西に続き、座敷北の御座の間は奥の上段に造り、床、棚、書院を設ける。上質な空間を実現している。



ようかん  
【洋館】

- ・ 年 代 昭和 9 年 (1934)
- ・ 特 徴 御殿の西に位置し、中央の応接室、西の書斎ともに漆喰塗天井に中心飾りを付す。落ち着いた意匠の応接空間である。



きやくてん  
【客殿】

- ・ 年 代 昭和 17 年頃
- ・ 特 徴 洋館の西に接続する二階建ての入母屋造。二階は数寄屋風座敷、一階北室は内仏の間とする。寺院内の私的空間の有り様を示す。



のうこつどう  
【納骨堂】

- ・ 年 代 昭和 26 年 (1951)
- ・ 特 徴 境内の北東隅に建つ宝形造で相輪を戴く。高窓から外光を取りこむなどの造形を試みている。



どぞう  
【土蔵】

- ・ 年 代 明治 30 年頃
- ・ 特 徴 境内の北西隅に建つ。東妻面に瓦葺の下屋を付す。外壁は白漆喰塗に簷子下見張とし、妻壁も塗込めて母屋の形を見せる。境内背後の景観を構成する。



しょうろう  
【鐘楼】

- ・ 年 代 明治 23 年 (1890)
- ・ 特 徴 境内東辺中央に開く山門南側に位置する入母屋造。禅宗様を基調とした手の込んだ造形である。



しんようしゃせいしじょ  
信洋舎製紙所

- (1) 所在地 越前市定友町
- (2) 所有者 西野 正洋
- (3) 年代 明治中期～明治後期
- (4) 特徴 旧今立町五箇地区定友に位置し、明治から続く製紙会社である。製造された紙は明治26年(1893)にコロンブス世界大博覧会(シカゴ)にて優等賞状、明治33年(1900)にパリ万国博覧会にて金牌を受賞している。凹型に配置された4棟の躯体くたいはいずれも建築当初の明治期もので、現在も稼働する地元の伝統産業を支える大規模製紙場群の貴重な事例として評価できる。また、製紙場内には明治期の製紙機器も現存していて、これも近代化遺産として評価に値するものと考えられる。



位置図



配置図





すきばとう  
【漉場棟】

- ・ 年 代 明治後期
- ・ 特 徴 紙漉きを行なう最東側の建物。内部を広い一室とし、採光と通風のため連続したガラス窓が内外の意匠を特徴づける。



きゅうきゅうけいばおよ はりばとう  
【旧休憩場及び張場棟】

- ・ 年 代 明治19年(1886)
- ・ 特 徴 漉場棟の南に接続し、2階を張場とし、1階はかつて休憩場として使った。2階には乾燥機を用いた専用の乾燥部屋も持つ。



およ きゅう ばとう  
【ボイラー及び旧ロール場棟】

- ・ 年 代 明治中期
- ・ 特 徴 旧休憩所及び張場棟の西に続く。1階をボイラー室とし、2階を艶付のためのロール場として使った。製紙業の手工業からの近代化の過程を伝える。



きゅうちりとりばおよ しあげばとう  
【旧塵取場及び仕上場棟】

- ・ 年 代 明治32年(1899)
- ・ 特 徴 ボイラー及び旧ロール場棟の北に接続して建つ。2階を仕上場、1階を塵取場に使った。製紙の最終工程を行う建物。

